

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 0173800350, 有限会社 静内ケアセンター).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 1 column: 基本情報リンク先URL

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部, 札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりと自分の思うように過ごして頂き、基本同意を得ながら、良くご利用者様の目を見てお話しする。一人一人の思いを受け止め、ご利用者様の気持ちや動きを察し支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、日高管内新ひだか町静内地区の市街地にある閑静な住宅地に位置し、平屋建て2ユニットのグループホームである。ユニットは対称的な配置で廊下で繋がっており、職員や利用者は日常的に往来し交流している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Level (e.g., 1 ほぼ全ての利用者が), and Achievement Level (e.g., 1 ほぼ全ての家族と).

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念の他にユニットごとの理念があり、毎日の申し送りで唱和し共有、意識をする事で、サービスに活かせるように努めている。ミーティングでは実践されているのかを再確認している。	理念は、事業所とユニット毎にあり、事業所内に掲示し、利用者や家族にも周知するよう努めている。職員は、毎日の申し送り時に唱和し、ミーティング時に振り返りを行うなどして、職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、運営推進会議や避難訓練、ホーム行事、町内会行事にお互い参加し、交流を深めている。	地域や町内会の行事に参加したり、事業所主催の行事や避難訓練などに地域の方が参加して相互に交流している。特に夏祭りには、利用者や家族、地域の方が約200人位参加して盛大に催され、地域のイベントにもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム見学の受け入れや、自治会総会などに参加し、認知症の相談やショートステイ、デイサービスなどの行っていることを説明させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催しており、地域包括や薬剤師、自治会役員、ご家族の皆様にも事業所行事や避難訓練に参加して頂き、その中で出た意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、家族や地域包括支援センター担当者、自治会役員や薬剤師が参加して、定期的に関係し運営状況の報告や避難訓練の実施、情報交換や意見交換などを行いサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査員や生活保護担当職員の来訪時に、状況を報告、情報交換を行い運営推進会議には包括職員に毎回参加して頂き、情報交換を行い協力関係を築いている。	地域包括支援センター担当者が運営推進会議に参加しており、定期的に意見交換をしている。また、認定調査員や生活保護担当職員の来訪時の打合せや情報交換などがあり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を年4回開始しており、拘束委員を中心に研修会を行い、スタッフ全員で拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置して、年4回検討会を行っている。指針やマニュアルを整備して、委員会が中心となり年2回研修会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束廃止委員でも取り組んでおり、各ホームでのグレーゾーンにあてはまるものを上げ、話し合い、虐待になる前に防止できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度権利擁護の各制度のうち常に身体拘束や虐待防止の研修をし、1か月後に振り返りを確認しています。しかし自立支援事業、成年後見制度の研修は今年度は行っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に重要な苦情申し立てや退去条件、各同意項、当社のケア方針などを十分に説明し、その上で質問事項を伺っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活状況を月に一度担当者がお便りでお知らせし、面会に来られた時は直近の様子をお知らせしています。また、自治会にもホーム便りを配布しています。運営推進会議などで意見を聞く機会を設けています。	利用者毎の生活状況を添えたホーム便りを毎月発行して、家族に運営状況と生活状況の報告をしている。玄関には意見箱を設置しているが、家族の来訪時に意見や要望を殆ど聞き取り、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例ミーティングにおいて、職員の意見や提案を毎月の幹部会議に出し反映させている。	ユニット毎のミーティングを月1回行っており、幹部会議も毎月行っている。また、個人面談は、年1回定期的に実施しており、職員からの意見や提案は、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の意見を聞き入れ、職員が働きやすい環境づくりに努めている。勤務表作りにも個々の希望を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修・社外研修の機会を創出している。他の会社の実習生・研修生も受け入れ、指導することによる刺激の環境を創設。職員採用や育てる意味からの高校生のアルバイトを採用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	毎月の「ナイトデイ」「認知症カフェ」などを通じ、異業種、異世代、他社との交流の実践も行っている。組織や学会などへの発表による交流も実践している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人やご家族の方との面会をし、こちらの状況も見学して頂く。入居初期は説明をしながら一つ一つ確認をし、ご利用者様をよく見て何ができていくかを把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に管理者やホーム長が面談をし、困っていること事や要望などをお聞きし、入居後も面会時に話す機会を作り関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前や入居時に要望や希望を伺ったうえで、入居者様の状況を見ながらご家族と話し合い、何が必要なのかを探り、利用可能なサービスを説明し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たみや、季節の装飾の作成などを一緒に行き、一緒に暮らす家族のような関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時などに相談させて頂き、共に支えていく関係を築いている。毎月のお便りで状況報告をし、必要な時は電話で確認している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に馴染み深いものを置き、家族や友人、知人の来訪時には、居室またはホールで過ごして頂いている。外食や温泉に行くなどの交流が図れるようにしている。	利用者は地元出身が殆どな為、家族や友人、知人の来訪が多く、近郊の温泉や外食などには友人・知人と遭遇して歓談している。また、お墓参りは家族と行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の会話は、スタッフが中継ぎをし、円滑にいくように支援している。ミニレクリエーションや体操、誕生日会などに皆さまで参加して頂けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム内でのイベントなどを、面会時や電話連絡でお伝えし、来訪して頂けるよう交流に努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族から聞き取りをしている。介護記録ファイルには全ての職員が気づきを記録し情報の共有化を図っている。	日常生活の中から、本人の思いや意向を聞き取りをしている。また、本人から確認できない時は、家族から情報を聞き取り、介護記録ファイルで情報を職員間で共有するよう努めている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時にセンター方式を用い、聞き取るようにしている。これまでのサービスを利用している場合は、ケアマネージャーや相談員から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を見守り記録に残し、職員内で申し送りをし、個々に合わせた過ごし方、生活リズムを把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当を決め、ご本人やご家族の意向に沿って医療関係者の留意点などをもとに、ミーティングの中のカンファレンスで話し合う。4か月ごとにモニタリングをして介護計画を作成している。	利用者毎の担当者が本人や家族の意見や要望を把握し、医師や看護師の意見もまとめて、カンファレンスで検討し、計画作成担当者が集約して利用者の現状に即した介護計画を作成している。また、見直しは4ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録に食事や水分量、日々の様子を記入し、バイタル表や排泄表などで情報を共有して、ミーティングの場で話し合い、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行事の実施や車での外出、または個別の要望にもできるだけ応じ、地域のイベントに参加して地域の方と交流を深めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お誕生日などで、ボランティアの来訪にて、民謡やハーモニカ演奏などで楽しみを支援させて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望をお聞きしたうえで、協力医療機関による往診と訪問看護を受け、専門医の受診時には職員が同行して受診を支援している。	専門医等のかかりつけ医は職員が同行して受診している。協力医療機関の往診はユニット毎に月2回で、訪問看護も月2回による24時間体制の適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の状況を把握して、小さな変化や気づきなど、ケアセンターの看護師または協力医療機関の看護師に報告、相談している。いつでも連絡が取れる体制になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されているときは、ご利用者様の情報や様子を伺い、スタッフ間で共有し、退院後の処置について講習を受け、退院されるのを待っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について、ご家族に十分に説明をし、スタッフチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に本人や家族に重度化や終末期についての対応を説明して同意を得ている。重度化した場合は、主治医による説明と本人及び家族と打ち合わせをして、意向の確認をして主治医の指示の下、チームで連携して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、研修や講習を行い、年に1～2回程救急救命の研修を行う。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会の協力を仰ぎ、年2回訓練を行う。夜間に火災訓練、日中に避難訓練を実施した。	避難訓練は、消防署の指導の下、火災1回・地震と津波で1回の計2回を自治会の協力により定期的実施している。マニュアルや備蓄を整備して地域との協力体制で災害対策を行っている。	地域の協力により、年2回の避難訓練を行い、備蓄やマニュアルを整備して災害対策を行っているが、緊急時の備品整備も至急に検討して対応する事を期待する。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、お食事以外はお好きな場所でつろいで頂く。原則、呼称はさんづけしていません。	人格の尊重とプライバシーについては、法人内で接遇の研修会を定期的に行っており、事業所内でも振り返りで確認しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝の起床時や昼食後は、声かけをする。起きられない場合は自由にして頂く。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	テレビ番組は、利用者様が好きな相撲や時代劇、バラエティ、歌番組を録画し鑑賞して頂く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容に関し、ご家族から預かった化粧水をつけたり、ご自分で髪の毛を直されたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	健康に気をつかいながら作り、誕生会などの特別な日には、ご本人の好きなものを聞き、それをお出しするようにしている。	食事は職員が担当している。利用者も料理の下準備やお茶入れなどを手伝っている。行事食は、東屋でのバーベキューや流しソーメン、出前寿司などで、外食は、温泉の食堂やホテルのレストランなど楽しみな食事の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や排せつの状況を見ながら、一定の状況にできるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でできる方はしっかりと磨けているのかを確認させて頂き、支援している方は、汚れが残っていないのかを確認しながら口腔を行う。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	最終排泄時間を把握しながら声掛けなどを行い、パッドやおむつの使用を減らすようにしている。	利用者毎の排泄記録を確認して、職員間で共有し、一人ひとりの仕草や表情を見ながら、声掛け誘導してトイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりそうな利用者様がいた場合、便意をもよおすような飲み物を飲んで頂いたり、座薬を使用して対応する。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	出来るだけ当日ではなく、事前に声がけをし入浴して頂く。当日に声掛けをする場合は本人の意思を尊重し、体調を見て入浴して頂く。	入浴は週2～3回で、利用者の状況に合わせて支援しており、本人の意思や体調を見ながら、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明を調節したり、ギャッチアップなど様々なところに工夫をしながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人に処方された薬を飲んで頂き、異変が見られた場合はスタッフだけでなく、薬剤師などの意見を聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	片麻痺のある利用者様の得意なことをして頂けるように支援しています。おしぼりを丸め、食事のお茶を湯呑に入れて頂いている。カラオケ、風船バレーなど楽しんで頂く。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や温泉に行くなど利用者様の希望を取り入れ天気の良い日には外でお茶を飲んだりする事に努めている。	広い敷地内や近隣の散歩や買い物、東屋での外気浴やバーベキューなど日常的に支援している。外出行事は、お花見や紅葉見学、ツツジ見学、ペテカリ祭、近隣の温泉施設など季節に応じた外出の支援をしている。	ユニット毎の季節に応じた外出の支援をしているが、職員の状況を考慮して、2ユニット合同の事業所全体として、少人数での外出支援の検討も期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	たばこを買いに近くの商店に出かけたり希望に応じて車で大型スーパーに個別で出かけられるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や大切な方に電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わっていただけるよう季節の花や飾り物に努めている。居間や廊下に各行事の利用者様の写真を飾っている。明るいアットホームな雰囲気を作っている。	リビングと食堂は、採光や風通しもよく、高い位置にも窓があり、眩しい位の陽光が差し込んでいる。台所も広く、食堂とリビングが見渡せ、リビングは広くゆったりとしており、利用者は、日中は殆どリビングで寛いで過ごしている。2つのユニットは廊下で繋がっており、利用者も職員も相互に交流ができる。壁には、行事の楽しい写真や利用者の作品が掲示され、アットホームな感じである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席ほかのテーブル前にソファ3台置いて自由に過ごして頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、自宅で使用していた家具などを持ってこられたり、生活に合わせ、テレビや冷蔵庫をおいたり、写真や思い出の品を自由に飾りなど本人が居心地良く過ごせるように支援している。	居室には、大きな収納とベット・棚が設置されている。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台の高さ、テーブルやいすの高さを個々の利用者様に合わせている。浴槽には底上げできる椅子を使用するなど個々の安全を考慮している。		